

四季のコンサートだより

1986年8月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 浜松市東伊場1-10-507

電話連絡 (33)1291 (柴田)

クラシックを10倍楽しく聴こう!

日本楽器 アーティスト サービス部 村上輝久

「なにか書いて下さい」もっとも苦手なことを頼まれてしまいました。でも四季のコンサートは素敵な企画です。この会がますます発展することを祈って!!

・クラシック音楽は団体?で聴きましょう。

一人で聴くより家族や友達と一しょですと楽しさも倍増します。たゞし演奏中のおしゃべりは困ります。マナーもしっかり学びましょう。そして休憩時間や、終演後はお互い聴いた感想など話すことも楽しいものです。「次のコンサートも又一しょしましょうね。」

・音楽はいろんなジャンルを聴きましょう。

私はピアノが好きだから他の音楽会は聴きません、とおっしゃる方がたまにいます。有名なピアニスト、リヒテル氏は、ある日私に、「ピアノの楽しみは、歌や、室内楽、オーケストラを聴くことで、より理解されるものだ。ピアノ調律師は特にその必要がある」と話してくれました。幸いこの浜松音楽友の会は、いろいろな分野の音楽会が企画されています。よりごのみせずみんな聴きましょう。

・良いと思ったら大かっさいを!

浜松の音楽会は徐々にマナーもよくなってきました。でも残念なことは拍手がさびしいのです。演奏家にとって一番嬉しいことは大かっさいを受けたときです。欧米の音楽会では拍手だけではたりず、足まで踏み鳴らしての声援をよく耳にします。そしてプログラムが終ったときは、立上っての熱烈歓迎です。「スタンディング・オベーション」、とはこのことです。演奏家は益々エキサイティングして、心のこもったアンコールも聴くことが出来ます。拍手のひっこみ思案と遠慮は音楽会をつまらないものにしてしまいます。

・聴くチャンスを増やしましょう。

四季のコンサートは年4回しかありません。でもよく調べると浜松ではかなりのクラシックコンサートが行われております。昨一年だけでもなんと46回のコンサートが催されているのです。音楽は理屈ではありません。弥次馬的に行っても良いのです。そして感動を覚えた曲は、たまにはレコードを買うことです。レコードを聴いて、コンサートの感動がよみ返ってきます。えっ!お金がかかる?大丈夫、飲みに行くのを月一回セーブしてみたら、体は健康、心はさわやか、これぞ文化人!!

1986年	秋のコンサート	桐朋学園オーケストラ演奏会	9月6日(土) PM7:00	浜松市民会館
		指揮・秋山和慶、フルート・工藤重典		
	冬のコンサート	須川展也アルトサクソフォーンと ルヴァンヴェール木管五重奏団 演奏会	12月2日(火) PM6:30	"
1987年 予定	春のコンサート	大島洋子(ソプラノ) 青山智英子(アルト) 黒田晋也(テノール) 大島幾雄(バリトン) "歌の夕べ"		"
	夏のコンサート	安倍圭子マリンバリサイタル		"
	秋のコンサート	岡田博美ピアノリサイタル(日本国際ピアノコンクール第1位)		"
	冬のコンサート	佐藤陽子ヴァイオリンリサイタル		"

会員だより

私の音・楽・事・始

岡部昌之

それは、私が中学3年のときのことでした。ちょうど私たちのクラスの音楽担当になられたのは、その年、他校から着任されたばかりのN先生でした。初めての音楽の授業のとき、そのN先生曰く、

「音楽というのは、…音楽とは、音を楽しむことです。」

黒板に、「音楽」と大きく書いて、そう言われました。

それまで、音楽とは?などと考えたこともなかった私にとって、それは、あまりに単純明快で、却って新鮮で印象深い、音楽との出会いでした。

それでも、やはりテストは付き物で、歌唱テストが課されることになりました。ただし、曲目は自由、何を歌ってもよい、ということでした。

さて、そのテスト当日、すごい2人組が現れたのです。何がすごいかって、彼らは、歌に振りまで付けて、「コーコケッコー、夜が明けた〜、お空は真赤な朝焼けだ〜…」とやり始めたのです。そのとき、クラスの受けたの、受けなかったの。大爆笑が起こり、しばらくは、「コーコケッコー」が流行語になったくらいでした。(ちなみに、そのとき私は、「デカンショ節」を歌いました。ずい分と思い切った選曲のつもりだったんですが…)

しかし、今ふと思い出してみると、実は、彼らこそ、「音楽」— 音を楽しむ — をしたのではないか、と思うのです。私の今までの沢山の音楽との接触の中でも、彼らほど音を楽しみ、また人を楽しませた音楽家は、そうはいません。

ストレートに音を楽しんでいる音楽家たちに出会いたいな、そして素直に、自然に音を楽しみたいな、そんな思いで胸を一杯にして、今日も市民会館へ出かけて行きます。

“自然”であること

内山智子

私の最も尊敬する方からいただいた今年の年賀状に、「人生は自然がいい」という一文があって、なるほどと頷ける思いを致しました。

美しいものを美しいと思える心、素晴らしい音楽を素晴らしいと享受できる素直な感性— 音楽会の場は、私どもの心に、それを改めてよびさまし、煩雑な毎日に、いかに振り回されているかを大きな懐で教えてくれる所のような気がします。コンサートの楽しさは、共鳴できるものが何か一つ、あればいい。最近では、クラシック音楽までが、ファッション化されて来ているそうです。でも、ファッション界の窮極は“Simple is the Best”です。最終的に求められる色彩は、墨染の衣ならぬ、黒と白のモノトーンであるといえます。人の心も、大自然の中、最も素朴に音楽を感じられたら、世の問題もすべて、「たかが…」と片づけられそうな気が、私には、密かにします。

さて、四季のコンサート仲間を眺めてみますと— 東敦子さんのソプラノに魅せられてすっかり歌のファンになり、すぐレコードを買ったSさん親子、毎日が楽しみでも、会場へかけつくと仕事の疲れがどっと出て、少なからず眠ってしまうHさん、やっと子育てから解放されて、胸はずませているMさん…etc、私自身はというと、せめて当日ぐらいは優雅に音楽だけに浸りたいと、体調を整え、さっそうと(?)お出かけです。小三の娘は、音楽が流れるたびに、「これはおそうじの時の音楽、昼休みの…、雨の日の…」と、学校生活とタイアップして、興味深く耳を傾けるようです。

回を重ねるごとに、子どもの音楽態度やマナーも身につけてきて、大いに感激しつつ、新聞などを通して、いずれは“ふれあい”にと期待されている方を応援したい思いにもかられます。そういう事を合わせ考えると、ふれあいコンサートが様々な分野のいい音楽に出会える良きフィルターとなって、私ども大人達、母親自身の心を豊かにし、それが周りの人達の中に還元されていけたら、と願うのは、決して私だけではないような気が致します。

” アットホームなコンサート ”

平山 久実子

一昨年、「浜松音楽友の会」発足と同時に勧めて下さった方もあって、大学の友人も誘い、早速、入会させていただきました。

この「ふれあいおんがくかい」の良いところは、まず、会費が安いこと。年度の始めに四千円払う時は「ちょっと痛い出費かな。」とも思いますが、学生でも払えない金額じゃないし、ちょっとしたコンサートの一回分の入場料ぐらいなので、その場で入金します。すると、お財布がさびしくなった頃にもちゃんと、春夏秋冬コンサートのお誘いが来るのです。会場に足を運び、音楽に聴き入ると、不思議とリッチな気分になれます。

それから、アットホームな暖かさも魅力の一つです。ただ、演奏を聴かせてくれるだけじゃなく、楽しいおしゃべり（インタビュー）や楽器の紹介など、大人も子供も楽しめちゃいます。そういえば、この会の会員の子供達は、皆、音楽好きのせいか、どの子もとっても熱心に聴いていますね。まだ小さくて、静かに聴けない子供を持つお母様の為には、保育室も用意してあるし、そこここに、女性の、主婦の、細やかな心配りがほのぼのと感じられます。

私は、音楽は、すごく好きなのですが、あまり演奏家とかコンサート情報とかに詳しくないので、こうして年四回、ポーとしていてもいろいろな演奏が聴けるのは、とても助かります。（でも、ポーとしすぎて演奏会の日を忘れない様に注意しなくっちゃ。）

これからも、可能な限り、続けていくつもりです。スタッフの方々は、いろいろと苦勞もあり、大変だと思いますが、毎年毎年の企画をとっても楽しみにしていますので、よろしくお願いいたします。

ス タ ッ フ だ よ り

事務局 安倍 紀子

浜松音楽友の会も、お蔭さまで、今年で、三回目の夏を迎える事ができました。これも皆様の暖かいご支援や、心のこもった、アドバイスのお蔭と、スタッフ一同、心より感謝いたしております。

発足以来、スタッフの中では、最も若く未熟で、その上、全く事務能力の無い私が、なんと事務局を担当する事となり、時には、おだてられたり、叱られたりしながらも、なんとか今日に至りました。自宅で、二ヶ月に一度、十数人のスタッフと打ち合わせを行なうのですが、さすがは、主婦の集まり、時には、軌道を外れて、家庭の話、お料理の話、果ては、只今未熟なダメ母を暴走中の私に、子育ての訓示まで、実に様々な会話が飛びかい、あっという間に時間が過ぎてしまいます。もちろん、友の会の企画、運営から、それぞれの、クラシック論に至るまでの、本筋でのコミュニケーションも、とても、心楽しいものです。

思えば三年前の冬、“親子で、できる限り質の高いクラシック音楽を、気楽に楽しめる音楽会が、あったならば…”と、後先きを考えずに発足した友の会でしたが、歩み出しはしたものの、万が一、会員が集まらなかったら…と、一瞬、足踏みをした私に、なにがなんでも、やってみようと言う、スタッフの熱意と“一度初めた事なんだから、身銭をきってでも、一年間は続けてみなさい”と応援してくれた夫など、今から考えてみると、随分と感慨深い三年間でした。心配していた会員も、その年は、キャンセル待ち会員まで、でるほどの結果となり、現在まで、大きな支障もなく、なんとか運営を営むことができました。

なかなか、主婦の力だけでは、大変な仕事ですけれど、暖かい会員の皆様の励ましのおかげで、失敗続きの私達も、ここまで続けてくる事ができました。発足当時、ちょうど、お腹の中に誕生しました長男と重ねあわせて、友の会が、今後増々、魅力的な会に成長するよう、努力してゆきたいと思っております。

お知らせとお願い

会員だより 皆様のご寄稿をお待ちしております。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。

会員登録 は年度が変わっても、そのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の10月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。

名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の 住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。



秋のコンサート

9月6日(金)PM.7:00



桐朋学園オーケストラ演奏会

PROGRAM

ビゼー	交響曲 第1番	ハ長調
イベール	フルート協奏曲	
ドビュッシー	交響詩「海」	



指揮
秋山和慶



フルート
工藤重典

冬のコンサート

12月2日(火)PM.6:30



須川展也アルトサクソフォンと ルヴァンヴェール木管五重奏団 演奏会

PROGRAM

フランセ	木管五重奏
ポール・クレストン	サクソフォン ソナタ
アンリ・トマジ	管楽6重奏のための「春」
ダリュースミヨー	スカラムージュ



須川展也

本年度の冬のコンサートは歌の夕べの予定でしたが、演奏者の都合により来年度春のコンサートに延期となりました。冬のコンサートは日本の管楽器界の若いホープアルト・サクソフォンの須川展也(浜松北高 東京芸大卒 第51回日本音楽コンクール第2位)とルヴァンヴェール木管五重奏団(第18回民音室内楽コンクール第1位)に変更させていただきます。

又、秋のコンサート 桐朋学園オーケストラ演奏会は特別会員券として2,000円にて前売券を市内プレイガイド(又はスタッフ)で販売しております。会員でない方をどうぞお誘い下さい。